RECOVERY

ISLAND OKINAWA

リカバリーアイランド沖縄

Vol. 37

PLEASE
TAKE IT FREE
ご自由に
お持ち帰りください
無料

依存症治療最前線

「大麻をめぐる諸問題」 ～海外における大麻合法化を理解する～

湘南医療大学　船田 正彦

仲間の声

「クリーン7年目を迎えて」

琉球GAIA　OB　T

「幸 せ な 今」

琉球GAIA　OB　WK

Photo by Takkaja.com

琉球GAIA

依存症治療最前線

「大麻をめぐる諸問題」
～海外における
大麻合法化を理解する～
湘南医療大学　舩田 正彦

仲間の声

「クリーン7年目を迎えて」
琉球GAIA　OB　Tさん

「幸 せ な 今」
琉球GAIA　OB　WKさん

TEAM.START

大麻をめぐる諸問題
～海外における大麻合法化を理解する～

はじめに

危険ドラッグが流通し、その乱用による交通事故の多発などの社会不安を招いたことは記憶に新しいところです。危険ドラッグについては、緊急の規制対策により流通が抑止され、関連の事件や事故は激減しました。一方、最近は、ポスト危険ドラッグとして、大麻の乱用問題が表面化しています。わが国における大麻事犯の検挙者は、ここ数年で一気に増加し、特に、20歳未満の大麻事犯検挙者の増加は深刻で、若年層への大麻乱用拡大が危惧される状況となっています。

海外では大麻規制のあり方が見直され、特定の疾患に対する治療を目的とする「医療応用」あるいはアルコールやタバコの様な「嗜好品」として大麻使用を容認する動きが進んでいます。アメリカでは１９９０年代から大麻規制について議論がなされており、各州の権限で医療用大麻法または嗜好用大麻法を導入することで大麻使用が許可されています。医療用大麻については、１９９６年にカリフォルニア州において初めて許可されました。嗜好用大麻の使用については、２０１２年にコロラド州とワシントン州での使用が認められて以来、現在では半数以上の州で嗜好品としての大麻使用が認められています。医療用としての大麻使用については、既存の医薬品では治療が困難な疾患に対しての利用が進んでいます。一方、嗜好用の大麻使用については、年齢制限（21歳以上）、使用や購入可能な場所などの制限の元で使用が許可されています。特に重要なポイントとしては、各州では年齢制限に満たない青少年における大麻使用については厳しく規制しており、青少年の大麻使用を抑止するための政策が講じられています。本稿では、アメリカの例を中心に大麻の医療応用の可能性並びに嗜好品としての大麻合法化の現状と課題について整理します。

大麻と医療応用

大麻草に含まれる代表的なカンナビノイド類として、Δ^9-テトラヒドロカンナビノール（ＴＨＣ）およびカンナビジオール（ＣＢＤ）が知られています。ＴＨＣは大麻による意識の変容や幻覚などの精神作用を示す主成分として知られています。

一方、ＣＢＤはＴＨＣと同様な精神作用は有しておらず、ＣＢＤ製剤であるEpidiolexはドラベ症候群（指定難病１４０）の患者における重篤な痙攣発作の発現を減少させるため、医薬品としての利用が進んでいます。大麻全体を利用するのではなく、含有されている成分が医薬品として役立っている点が重要です。

大麻合法化とは

アメリカコロラド州では、２０１２年に嗜好品としての大麻使用が合法化されました。大麻合法化の内容としては、「制限なし」での容認ではなく、年齢制限（おおむね21歳以上）、所持量制限、使用可能な場所（学校、職場、公共施設、自動車運転中では禁止）の制限などの厳格な規制のもとでの使用許可となっています。本規制法の導入では、成人での大麻使用ルールを明確化し、青少年の大麻使用を抑止することが目的となっているのです（表１）。

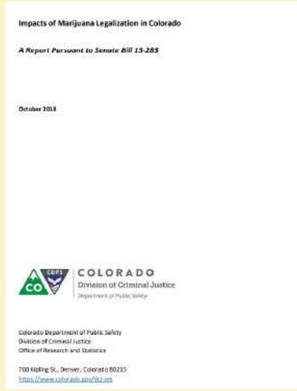
この背景には、国民の大麻使用経験率が40％以上と現行の規制での対応が困難であること、また、若年からの大麻使用は依存症などの健康被害の発生リスクを高めることなどがあります。さらに、大麻使用による有害性を軽減されるためにも成人での大麻使用ルールを定めているという側面もあると考えられています。重要なのは、大麻合法化は「大麻の安全性に基づく規制変更ではなく」、当事国の社会情勢に起因するものと考えるべきです。

大麻合法化による諸問題

大麻合法化に踏み切ったコロラド州では、州内の大麻使用に関連する社会問題の発生についての経年的な調査を行っています。特に、医療関係の問題については、Colorado Hospital Association（ＣＨＡ）に集積した医療情報を分析し、大麻使用に関連した入院患者および大麻使用関連の救急搬送された件数について公開しています（※）。コロラド州の解析によれば、医療用大麻が合法化された２０００年から嗜好品としての大麻使用が合法化され、商業販売が開始された２０１４年にかけて、大麻使用障害と診断され入院した患者は４．３倍の増加が確認されています。さらに、２０２０年では入院患者はおよそ６倍に増加しており、大麻使用の依存問題が深刻な状況になっています。本データは、大麻使用の合法化により大麻使用頻度や使用量が増加しており、こうした大麻使用に関する環境の変化が大麻使用障害の患者数増加に関与するものと考えられています。

同様に、コロラド州内では大麻摂取による救急搬送事例が増加していることが確認されています。特に深刻なのは、幼児（０～５歳）の救急搬送件数の急増です。コロラド州内では、大麻食品の販売も容認されており、大麻成分ＴＨＣ含有のチョコ、クッキー、グミなどが販売されています。家庭内で幼児が大麻食品を誤って摂取してしまい、意識障害などを起こすため救急対応が必要となっているのです。大麻および大麻食品の流通の増加は、許可されている成人のみならず、その家族などの健康

コロラド州における マリファナ合法化の影響


Impacts of Marijuana Legalization in Colorado

A Report Pursuant to Senate Bill 13-283

October 2018

COLORADO
Division of Criminal Justice
Department of Public Safety

Colorado Department of Public Safety
Division of Criminal Justice
Office of Research and Statistics

700 Kipling St., Denver, Colorado 80215
https://www.colorado.gov/dcj-ors

表1　コロラド州における大麻使用に関する情報発信

(1)使用、所持の規制
年齢制限：21歳以上でなければ、使用および所持は禁止（1オンスまでのマリファナ所持が可能）
使用場所の制限：公共の場（屋外や屋内）でのマリファナの使用は禁止
(2)自動車運転の危険性
大麻使用下での、自動車運転は違法行為
血中からデルタ-9テトラヒドロカンナビノール（THC: 5ng/mL）が検出されると起訴対象
(3)青少年の大麻使用防止
大麻使用が健康に与える影響に関する情報発信
大麻には依存性があること。若年期からの大麻使用は、依存に陥るリスクを高める可能性

(1)(2)について、遵守しない場合は、法的責任を問われたり、罰金を科せられる。
参考サイト: https://cannabis. colorado.gov/legal-marijuana-use-in-colorado
a)https://marijuanahealthinfo.colorado.gov/health-data/colorado-hospital-association-cha-data
b)https://marijuanahealthinfo.colorado.gov/health-data/poison-center-data

舩田　正彦
湘南医療大学, 薬学部医療薬学科, 教授

2018年度 - 2020年度: 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター, 精神保健研究所 薬物依存研究部, 室長
2017年度: 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター,その他
2016年度: 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター, 精神保健研究所 薬物依存研究部, 室長

危険ドラッグの依存性並びに毒性の評価研究を展開。危険ドラッグの迅速検出法の開発などを通じて、薬物流通の水際対策に貢献している。また、海外の物質規制手法の調査を通じ、現行の国内規制手法改善に向けた提案を行っている。薬学博士。

被害を誘発する危険性があり、適正な使用に加え関連する物品管理についても十分な配慮が求められているのです。大麻合法化に伴い、乾燥大麻に加えて、大麻食品などの製品に関する正確な知識、さらには家庭内で未成年や小さな子供が大麻製品を誤って摂取しないよう啓発していくことが必要となっています。

※Impacts of Marijuana Legalization in Colorado : A Report Pursuant to Senate Bill 13-283, 2018

大麻使用と自動車事故

大麻規制の緩和に伴い、大麻影響下における自動車の運転と事故発生の関連性についての調査研究が進んでいます。２０１３年以降のコロラド州で発生した交通死亡事故に関して、薬物検査の結果では、交通事故死亡者に占める大麻陽性者が急増していることが判明しています。また、交通事故死亡者の内訳をみると、大麻の単独使用、大麻とアルコールもしくは大麻と他の薬物を併用しているケースは、２倍に増加しています。したがって、大麻単独もしくはアルコールや他の薬物との併用時の自動車運転については、事故発生のリスクが急増するため、非常に危険であることを認識する必要があるのです。

おわりに

大麻の利用可能性については、大麻成分の一つであるＣＢＤが注目されており、海外では小児の希少難治性てんかんの治療薬として利用が始まっています。一方、嗜好品として大麻使用が合法化された場合、大麻使用障害や大麻製品使用による救急搬送事例件、交通事故の増加などの問題も発生しています。したがって、大麻規制が緩和されたとしても、青少年の大麻使用防止教育、家庭内での大麻製品の管理の徹底、大麻影響下における自動車運転の抑止などは検討すべき深刻な課題となっています。大麻合法化とは、一定の規制の中で大麻使用が容認されているということを理解する必要があります。特に、成人での大麻使用ルールを明確化することで、青少年の大麻使用を抑止することが目的となっているのです。また、最近流通している大麻を調査してみると、含まれるＴＨＣ濃度が高くなっており、大麻が示す作用が強力になっていると推測されています。大麻使用リスクを過小評価しないよう、大麻使用に関する総合的な検証が必要となっています。

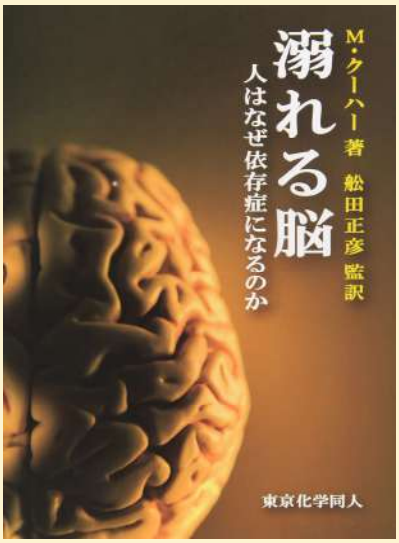
国内では、本年5月より厚生科学審議会の医薬品医療機器制度部会において大麻規制検討小委員会が開催され、大麻取締法等の施行状況と課題についての論議が進んでいます。これまでに計4回の小委員会が開催され、大麻取締法等の改正に向けた主な論点として、**①医療ニーズへの対応、②薬物乱用への対応、③大麻の適切な利用の推進、④適切な栽培及び管理の徹底**について重要課題として取り上げられています。

大麻の乱用防止に加えて、再乱用防止と社会復帰支援、大麻の適切な利用の観点から、現行の大麻取締法が大きく改正されるものと考えられます。

書籍紹介

「危険ドラッグの基礎知識」　講談社
松田　正彦　著

危険ドラッグの正体について薬学的観点を中心にわかりやすく解説。取り締まりの歴史や種類、特徴など基礎的な関連情報も充実。



「溺れる脳」　東京化学同人
Ｍ・Ｋｕｈａｒ著　船田　正彦　訳

脳内の依存形成メカニズムをはじめ、医療従事者のスタンスや家族の役割など幅広い情報を網羅している。

クリーン7年目を迎えて

琉球GAIA OB　Tさん

7年前の9月に僕は大麻取締法違反で逮捕されました。その時は公私ともに忙しく、年末に行う予定の結婚披露宴も控えていました。大事な仕事、仲間、これまで築いてきたものを全て失いました。

残ったものは家族だけでした。

保釈された後に両親と姉の勧めで琉球GAIAに入所しました。

僕が初めて大麻を吸ったのは17歳の頃です。当時は自分で買うこともなく、貰って吸っていましたが、20歳の頃には毎月定期便のように買っていました。

それから覚せい剤もやるようになりました。薬物類を常用するのに必ず仲間が必要になります。健康的な友達とは距離ができ、さらに薬物に手を出すようになりました。あとは、その繰り返しです。薬物に対して理解がある人しか周りにはいなくなりました。

2年程過ごして薬物中心の生活に嫌気がさして23歳の時に心機一転、職場を変え、薬物仲間と縁を切り、離れていた友達と過ごすようになり薬物の無い生活を送るようになりました。

何年か経ち、僕は久しぶりに薬物仲間と会いました。それが間違いでした。薬物仲間は悪い事とは思ってないので、もちろん僕に薬物を勧めてきます。そして僕はまた薬物をやるようになりました。これが依存症の怖い所です。薬物と薬物仲間がそろえば、他の事は一切考えなくなります。全てが二の次になっていきます。それも無意識に。また薬物が手に入るようになり、種類も増えていき、頻度も多くなっていました。完全に依存症です。

現在、SNS等で大麻を肯定的に発信している人達がいますが、他の国では合法でも日本では違法です。違法な薬物の怖い所は前に書きましたが、本当に恐い事は逮捕されたら周りを巻き込んでしまうことです。大事な人、大切な人ほど迷惑かけます。そして、そうなってからは本人では全部の問題を解決できません。支援が必要だし、時間も必要だし何よりお金も掛かります。文字では全部を伝えきれないし、出来れば体験せずに回復に向かってほしいものですが、きっと体験しないと分からないこともあると思います。

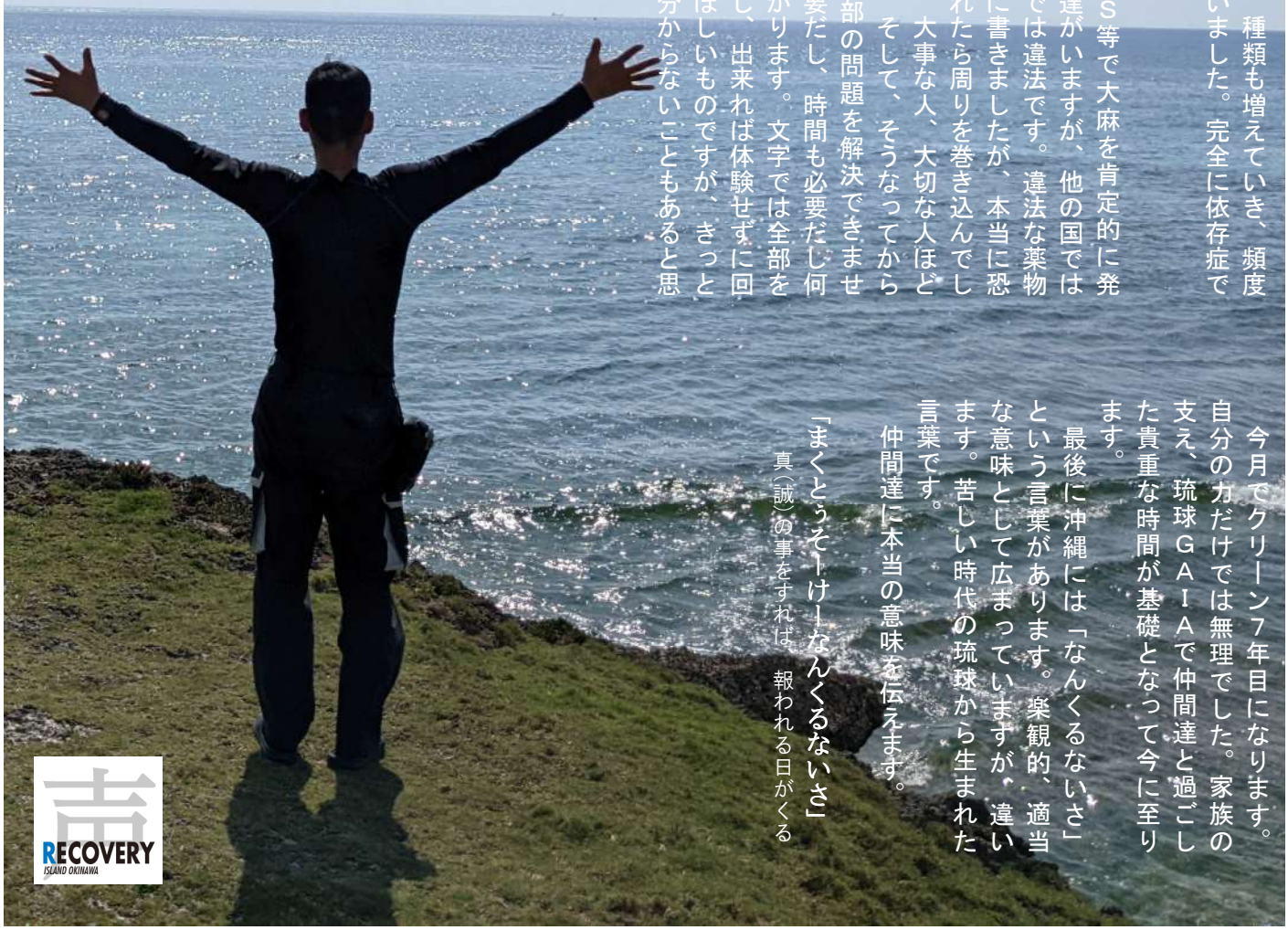
今月でクリーン7年目になります。自分の力だけでは無理でした。家族の支え、琉球GAIAで仲間達と過ごした貴重な時間が基礎となって今に至ります。

最後に沖縄には「なんくるないさ」という言葉があります。楽観的、適当な意味として広まっていますが、違います。苦しい時代の琉球から生まれた言葉です。

仲間達に本当の意味を伝えます。

「まくとうそーけーなんくるないさ」

真(誠)の事をすれば、報われる日がくる



幸せな今

琉球GAIA OB　WKさん

「なにが依存症だ。俺が病気なわけないだろ。」と誰しもが最初はこう感じるのでしょう。

しかし、自分が依存症という病気であることを認めること、依存症という病気と生涯向き合っていく覚悟を持つことで、私は救われた気がします。

私も依存症患者の１人です。そこで私が依存症になった経緯と回復にむけて取り組んだ事を話したいと思います。

私が初めて大麻を吸ったのは高校時代のカナダ留学の時でした。

当時仲良くしていたロシア人のグループに誘われて外に散歩に行くと、彼らはペットボトルで作った器具を取り出し、なにかを燃やし、ペットボトルの中に溜まった煙を吸い始めました。彼らはそれが「大麻だよ」といって、「試してみる？」と聞かれました。

初めての海外、初めての経験。好奇心旺盛だった私はそれほど罪の意識はなく、軽い気持ちで吸いました。

それから１年が経ち、自分で大麻を買うことはなくても友達と一緒に大麻を吸う日々は続いていました。ネット等で大麻について調べても【タバコより依存性がなく、害も少ない】【医療大麻がある】など多くのメリットが書いていたので、安心して吸っていました。カナダでは現在、大麻が条件付きで合法化されており、当時も大麻に対して厳しい罰則はありませんでした。

そして、３年が経ち、日本に帰る時がやってきました。依存性もないし、日本に帰ったら吸わないと決めていたので、大丈夫だと思っていました。しかし、日本に帰ってもつい大麻を買っては友達と吸ったり１人で吸ったりすることが増えました。大学に入学しても、大麻をやめられない日が続き、大麻を買うために借金をしたりもしました。なんとか大学は卒業できましたが「もう自分の力だけでやめることができない。」そう感じた時に出会ったのが琉球ＧＡＩＡでした。

ＧＡＩＡでまず初めに学んだことは、依存症は病気であることです。もちろん、最初のうちは自分が病気であることなど自覚もなく、認めたくもありませんでした。しかし、ＧＡＩＡの仲間たちとミーティングを重ねる上で、依存症という病気と向き合うことの大切さ、私が依存症になったことで心配や迷惑をかけてしまった人は誰なのか、その人たちにできる埋め合わせは何かを学びました。

私がＧＡＩＡに入寮して、体から薬物を抜き、療養できたのは、仲間たちとのミーティングがあったから、豊かな自然と触れ合える機会があったから、そして私を支えてくれる家族や彼女の存在があったからだと思います。

ミーティングで分かち合いをすることで自分だけが苦しい思いをしてる訳ではないと感じることがあったり、仲間の話を聞いて依存症という病気を再認識できたりしました。他にも、ＧＡＩＡの午後のアクティビティープログラムで海に行き、シュノーケリングをして気分転換をしたり、沖縄の観光巡りをしたり、ジムに行って体を鍛えたりもしました。沖縄の豊かな自然には何か内なるパワーがある気がして、毎回のアクティビティーが本当に楽しかったことを覚えています。そして、療養中に支えてくれた彼女の存在も、私にとってすごく大きなものでした。

３ヶ月が経ち、体から大麻が抜けきるとすごく清々しい気分と、冷静な判断ができることに気付きました。依存症という病気のせいで迷惑をかけてしまった人々に対しても少しずつ埋め合わせをしていけたらなと考えています。

そして現在、私には家族がいます。当時付き合っていた彼女と入籍し、子供を授かりました。今は全く別の人生と環境に恵まれ、幸せな毎日を送っています。この現状も、ＧＡＩＡでの療養がなければなかったことだと思うし、体から大麻を抜くことで本当に自分がしたいことを明確にできたのだと思います。

しかし、依存症という病気は生涯付き合わなくてはならないという現実には変わりありません。今後とも依存症と向き合いながら、仕事と育児を頑張りたいと思います。

大麻について感じること

琉球ＧＡＩＡ代表
ＳＴＡＲＴ　代表
鈴木　文一

今号は沖縄県で相談の増えている「大麻」について取り上げました。全国的に見ても危険ドラッグの規制以降、薬物事犯全体の検挙者数はほぼ横ばいですが、大麻による検挙者数は増加しており10年前に比べると５倍以上になっています。また２０歳代、２０歳未満の検挙者数が特に増加しており若年層への浸透が大きな問題で、県内外の高校生が大麻事犯で検挙されたことが報道されることも見られます。

私も中高生への薬物防止教室などで感じることはインターネットやSNS等の普及で、大麻等の禁止薬物がより身近となっていることです。また「大麻はたばこより害がない。」「他の薬物より安全だ。」「合法の国もある。」などの偏った情報を十分に理解せずに受け入れ、手軽に手に入れることのできる危険な状況を危惧しています。

一般的に大麻は覚せい剤等のハードドラッグと比べると激しい身体症状が出にくい特徴があり、長期間使用し気づかないうちに依存症となることがあります。はじめは大麻だけ使用していてもより強い刺激を求めて覚せい剤等に手を出したという仲間もたくさんいます。またNA等の自助グループの仲間にも「覚せい剤はもう使えないが大麻なら大丈夫。」と大麻を使い続けたり、一定期間薬物をやめていた仲間も軽い気持ちで大麻を使いはじめ再度薬物使用を繰り返してしまうことも多く見てきました。

大麻は違法薬物の入り口として使い始め、安易な気持ちで使い続けるハードルの低い違法薬物と言えるでしょう。

それ故、大麻のようなソフトドラッグの場合は本人の身の回りに困ったことが起きにくく、「治療したい」「助けてほしい」という状態になるのに時間がかかる場合がほとんどです。しかし、家族等の周りの人が大麻等の薬物使用に気づいた場合は各都道府県の精神保健センターやリハビリ施設、医療機関に電話を入れ相談することが大切です。薬物依存の相談に早すぎるということはありません。まずは家族が医療機関や家族会に繋がり、依存症への理解、本人への対応を学び対応策を持っておくことで本人が治療を望んだ時にスムーズに治療に繋げることができます。実際に琉球GAIAでも大麻関連の相談は家族からの相談にはじまり、本人は逮捕など困ったことが起きてはじめて登場するケースが多いのが現状です。

今後、大麻取締法の改正で「大麻」の社会的な立ち位置が大きく変化するかもしれません。医療面での有効性や依存問題への対応など解決すべき課題も多くあるようです。私たちはメリット、デメリットなど正しい情報を受け取り、より安全な判断をすることが大切だと思います。

私たちは
アルコール・薬物・ギャンブル等の
アディクションの問題や
知的・精神障害をお持ちの方の
自立のお手伝いをしています。
一緒に始めよう！
START
指定障害サービス事業者自立訓練（生活訓練）事業所
☎ 098-987-0640

琉球ＧＡＩＡ　家族支援プログラム

薬物依存症の治療や回復には、ご家族の果たす役割が非常に大きいという事が実証されています。私たち琉球GAIAでは「家族と共に回復する」という理念のもと、ご家族の方にも「家族支援プログラム」の参加を強くお奨めしております。
依存症と言う病気をよく理解出来るようになる事、ご本人に対する適切な対応や、コミュニケーションが行えるようになる事、依存症は回復出来るという事をご家族が信じられる事を大きなテーマにしています。また、家族会のグループがオープンであり、他の援助者や、治療機関と連携が取れている事も大切にしている事の一つです。グループに参加することで、ご家族に笑顔が戻り、本人同様、ご家族自身が仲間と出会い、回復を支援する為に必要な知識や情報を共有できる場所となるよう心がけております。

また、グループで学んだ事を実際の生活に活かせるようになるには、個別支援も大切です。個別のカウンセリングを通して個々の問題を整理しながらグループに参加して頂けると、教育プログラムの効果が最大限に発揮されると考えております。

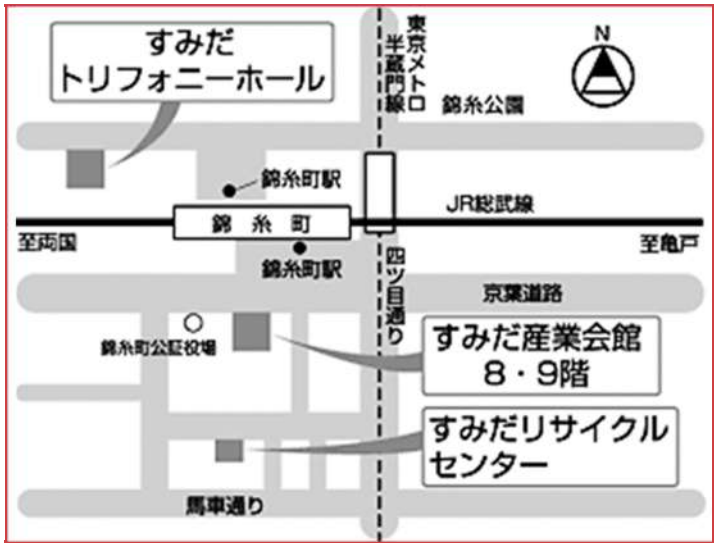
下記の家族会にはどなたでもご出席頂けますので是非ご参加ください。

現在家族会は再開されていますが、新型コロナウィルスの感染状況次第では中止にする場合もあります。その際はメールやホームページ等でお知らせいたします。

address

GAIA家族会 会場：すみだ産業会館9階
〒130-0022　東京都墨田区江東橋3-9-10　TEL:03(3635)4351
東京家族会とハイビスカスは、会場も開催日時も異なりますのでご注意ください。

map



information

GAIA家族会 TOKYO

依存症の問題を抱えた多くのご家族、琉球GAIAのスタッフ、OB、専門家を迎えてのセミナーなど、依存症に悩むご家族の方々にとって非常に内容の充実した家族会となっております。毎回40名ほどのご家族が参加されておりますが、初めてお越しの方でも参加しやすいようなアットホームな雰囲気作りを心がけています。

すみだ産業会館
毎月第2土曜日　18時～20時00分
参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡ください。
琉球GAIA：098-831-2174

ハイビスカス TOKYO

「ハイビスカス」は薬物依存症や様々な問題を抱えた娘を持つ母親を中心にしたグループです。娘とのかかわり方、対応の仕方をテーマにミーティングや勉強会を行っています。一人で悩まずに、同じ問題に取り組んでいる仲間たちと一緒に体験や気持ちを分かち合ったり対応の仕方について勉強しませんか？
場所：東京都港区芝5-18-2　障害者福祉会館
日時：毎月第1土曜日（祝祭日は休み）
　　17時～20時30分（無料）
参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。
琉球GAIA：098-831-2174

沖縄家族会 OKINAWA

沖縄県内の依存症の問題を抱えたご家族の為の家族会です。琉球GAIAスタッフが中心となり、ご家族の方からの質問や、本人とのかかわりについて具体的に提案する形で行っております。

場所：沖縄県豊見城市真玉橋135　NPKビル2階
　　生活訓練事業所「START」
日時：毎週月曜日（祝祭日は休み）
　　19時～20時（資料・場所代1,000円）
参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。
琉球GAIA：098-831-2174

大阪家族会 OSAKA

関西圏で依存症の問題を抱えたご家族の為の家族会です。元琉球GAIAスタッフを中心として、毎月専門的な講話や家族間での話し合いなど、充実した内容の家族会となっております。

場所：兵庫県尼崎市南塚口町1-5-13
　　美容院ルーナロッサビル3F
日時：毎月第2月曜日　17:00～18:30

参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。
琉球GAIA：098-831-2174

琉球GAIAの活動にご賛同、ご支援頂きますれば誠にお手数ですが同封しております振込依頼用紙にてお振込み下さるようお願い申し上げます。なお誠に勝手ながら、献金の振込依頼用紙はすべての方に同封させて頂いています。寄付献金を強要しているものではございませんのでご了承ください。

一緒に、考えよう

依存症

のこと。

依存症は回復できます。

RECOVERY
ISLAND OKINAWA

2022年 10月発行
発行|特定非営利活動法人アルコール・薬物依存症
リハビリセンター琉球GAIA
〒900-0024 沖縄県那覇市古波蔵1-18-37
TEL:098-831-2174　FAX:098-831-7174
MAIL:mail@ryukyu-gaia.jp

薬物・アルコール依存症リハビリセンター琉球GAIA
【GAIA東日本相談センター】
☎ 03-5800-5121
【GAIA西日本相談センター】
☎ 06-6433-5111
【沖縄ケアセンター琉球GAIA】
☎ 098-851-3535

フリーペーパー(無料)です、ご自由にお持ち帰りください。